

～第6話～「秦野の歴史・地理的特性と
上下水道」についてのお話

令和3年9月
Vol. 6

秦野の歴史と上下水道

主な出来事をピックアップ!

その他に関する事柄

左軸

スタート

右軸 上下水道に関する事柄

町村制が施行
(秦野町を始めとする7
つの村が誕生)

1889年
(明治22年)

水道

1890年
(明治23年)

日本初の陶管を使った
曾屋水道が誕生

湘南馬車鉄道が開通

1906年
(明治39年)

町営電気事業の営業開
始

1916年
(大正5年)

小田急線の開通

1927年
(昭和2年)

秦野町・南秦野町・東秦
野町・北秦野村が合併
市制を施行

1955年
(昭和30年)

大根村の一部が編入合
併

西秦野村と上秦野村が
合併(西秦野町の誕生)

西秦野町が編入
(現在の市域が完成)

1963年
(昭和38年)



曾屋水道創設期の浄水工場

曾屋水道は、水道
の必要性を認識した
当時の住民が主体
となり創設された、
秦野市の財産です。



Dr.すいびー
水道マスコットキャラクター

水道

1970年
(昭和45年)

合併前の町村単位で設
置されていた水道を統合
(新たな水道を創設)

下水道

1974年
(昭和49年)

公共下水道の整備計画
が決定

下水道

1981年
(昭和56年)

公共下水道の供用が開
始

急激な人口増加に伴う、生活排水等による河川の水質悪化を改善するため、公共下水道が整備されました。



スィスイ
下水道マスコットキャラクター

今後も人口減少が続くことで、上下水道事業の経営環境は、厳しさを増していきます。



人口の推移をピックアップ!



- | | | | |
|--------------|-------|----------|----------------|
| ① | 昭和40年 | 57,930人 | 昭和50年代にかけて人口増加 |
| ② | 昭和50年 | 103,663人 | 10万人到達 |
| ③ | 昭和63年 | 151,184人 | 15万人到達 |
| ④ | 平成21年 | 170,207人 | 人口のピーク |
| 平成24年から減少傾向へ | | | |
| ⑤ | 令和2年 | 164,243人 | 人口減少は続く... |

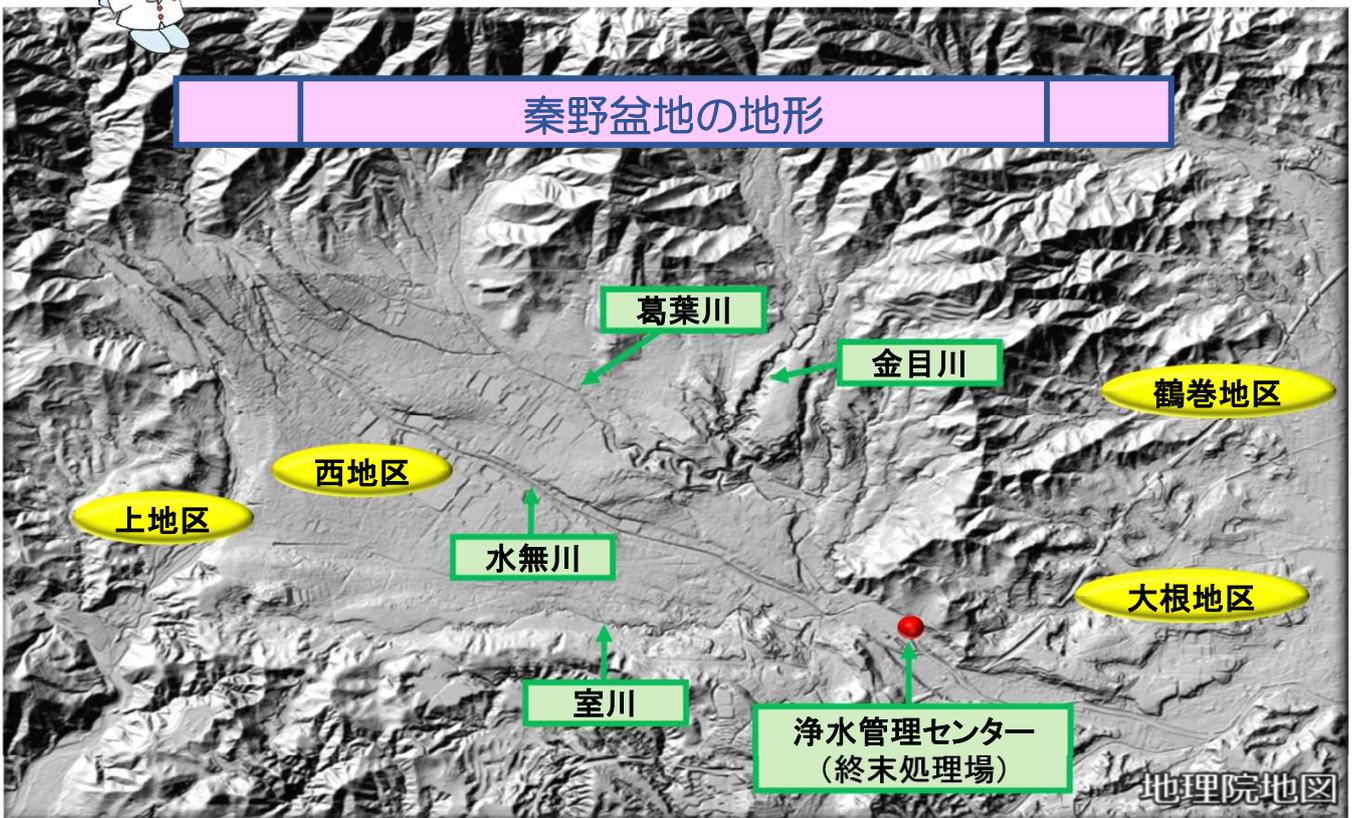
秦野の地理的特性と上下水道

秦野盆地を囲む豊かな森林は、盆地の地下に豊富な地下水をもたらし、その量は約7.5億トンと推定されています。本市の水道事業は、この豊富な地下水を活用しており、本市が供給する水道水の約7割は地下水で賄われています。

さらには、市街地と周囲の標高差を活かすことにより、配水場から各家庭へは自然流下方式で水道水を供給できることから、地下水の利用と合わせて供給コスト抑制の要因となっています。



「水道の仕組み」については、
第3話をご覧ください！！



秦野盆地には、水無川・葛葉川・室川・金目川が流れており、盆地の東端で金目川に合流しています。本市の終末処理場である浄水管理センターは、盆地の東端に位置しているため、西から東に向かって海拔が下がっている特徴を活かし、**秦野盆地内で発生する汚水については、その大半を自然流下で浄水管理センターに集約することができ、処理コスト抑制に繋がっています。**

これに対して、盆地の外側で発生する汚水を盆地内に位置する浄水管理センターで処理するためには、複数の中継ポンプ場の建設が必要になるなど、巨額の処理コストを要することになります。そのため、市域の西側である**西地区の一部と上地区から発生する汚水については、神奈川県の下処理場(酒匂水再生センター)へ、市域の東側である大根地区の一部と鶴巻地区から発生する汚水については、伊勢原市の終末処理場に接続し、処理コストを抑制しています。**

「下水道の仕組み」については、
第4・5話をご覧ください！！

